



共同寄宿舍・信陽舎の存在意義 再認識

市場経済のグローバル化による格差拡大により家庭の経済的苦境が増す中、追い打ちをかけるかのように新型コロナが襲いかかり、首都圏の大学に通う学生たちは苦境に立たされ、進学をあきらめざるを得ない高校生も増えているのが現状です。

明治39年、志を持って信州から上京してくる苦学生たちを支援しようと、情熱を持った多くの篤志家たちが立ち上がり、共同寄宿舍建設のため募金運動などに奔走されて信陽舎が産声を挙げました。

なぜか、信陽舎誕生の時代背景が、若者が苦境に立たされている現在の状況に通じるものがあるように思われる。今一度、初心に帰って共同寄宿舍としての信陽舎の存在意義、その重要性を考えてみるために、信陽舎創建当時の歴史と創建に尽力された方々の人物像を振り返ってみたい。

タイムスリップ 《信陽舎五十年史》① ”はしがき”と大塚台寮建設まで

信陽舎の創立は明治39年(1906年)11月23日、以来116年という長い歴史と伝統を受け継いで今日に至っております。その間に、信陽舎を巣立っていった舎友は900名を超えました。明治、大正、昭和、平成、令和と激動する歴史の中、それぞれの時代の世相を映しつつ歩んできた信陽舎の寮生活の模様を、古い資料をひも解きながらシリーズで振り返ってみたい。年寄りの懐古趣味と笑うなかれ、過去の先人たちから学んでこそ将来への展望が開けると思うからです。まずは第一回として、昭和34年9月発行の加納金三郎・第2代理事長によって書かれた『信陽舎五十年史』の中の、《はしがき》と《1. 設立運動より大塚台に建設迄》を覗いてみましょう。(注：文中に使用されている旧字体(旧漢字)は新字体にさせていただきました。福與記)

《 はしがき 》

昭和34年9月10日 財団法人信陽舎理事長 加納金三郎誌

信陽舎は、長野県の最南部下伊那郡出身の東京遊学生の為に、共同寄宿舍として、遠く明治39年小石川区大塚台に建設せられてから、五十有余年の星霜(せいそう:年月の意)を経、幾百の英才を世に送ってきた。

この間幾多の変遷をへて場所を変えること2回、1回目は大正12年の関東大震災により建物の損傷はなはだしく、補修も至難となって郊外移転に決し、杉並区馬橋に地を求め昭和2年新築移転した。2回目はその馬橋寮が昭和20年5月戦火により全焼し、爾来(じらい)十年余の空白後、31年武蔵野市境の現所に邸宅を求めて、復興の一步を進め、更に34年7月増築工事を完成して、ここに復興事業を一応終わったのである。即ち之を大別すれば、

- 一、大塚台時代 明治39年より昭和2年まで18年間
- 二、馬橋時代 昭和2年より20年全焼その後21年秋まで借家合宿生活19年間
- 三、空白時代 戦災より31年まで10年間
- 四、武蔵境時代 昭和31年9月より今日に至る

この間建設と再建あい続き、資金の入手に経営上に並々ならぬ苦心を重ねてきたが、山河を同じくする人々の郷土愛の結晶により、今日までよくこれを維持し、さらにこのたび美事(みごと)に復興をなし得たことは、愛郷心の現れとして誠に感謝感激に絶えないところである。

この機会に始めて五十年史を編集し、将来に資料に残さんとしたのであるが、古き先輩は殆(ほと)んど皆他界して当時の状況を尋ねるに術(すべ)なく、又歴史を語る保存書類は悉(ことごと)く戦火に失われて、僅(わず)かに生き残れる少数の関係者の記憶を辿(たど)りて聞きあわすほか道がなかった。従って記述の不正確誤謬脱漏(ごびゅうだつろう)等を免れぬことと思うが、今後機会を見て修正したい。

又将来の発展計画や指導方針等は私だけの独断的所見を掲げた点が多いが予(あらかじ)め承を願いたい。なお別冊配付の舎友名簿と対照しつつ、当時起居を共にせし寮友と生活を偲ぶ(しの)ぶすがともならば幸甚(こうじん)である。

《 1. 設立運動より大塚台に建設迄 》

旺盛なる信州の教育熱 吾等の故郷信州では、遠く徳川幕府時代より、各藩競って教育に力を注ぎ、それに信州人一般の優秀なる素質や文芸の才能が加わって、春台象山天山を始め幾多の学者芸術家志士等を生んだ。

明治時代に入りては全国一の教育県として謳われ、その教育施設の整備や県民の知識水準の高きこと又議論好きのことは広く天下に知られた。交通は尚(なお)甚(はなは)だ不便であったにもかかわらず、東京を中心に遊学する青年また甚だ多く、各種学校に於(お)ける県人会は、数に於いて又質に於て概(おおむ)ねトップを占める有様であった。

学生寮の建設相続 従って之等(これら)学生のために寄宿舍建設の要望が高まり、各旧藩又は地域別に、或(あるい)は志を同じうする幾つかの学寮が盛んに建設せられた。即ち、諏訪の長善館を始めとし、儒教主義の同志結社たる尚志社(松本上伊那地方が中心)、南信の信陽舎、北信の千曲寮、更に近年に至り全県を目標とする信濃寮、終戦後信濃育英会(元信州出身軍人のクラブたる信武会の後身)が設立せられ、恐くは、その数に於いて又学生の員数に於いて、全国一の学寮県であろう。当舎もまた同様の目的を以て設立せられたのである。

上京学生の激増と共同生活 我が南信の僻地からも遠き昔より、青春の大望を抱いて幾多の俊秀が笈(おい:書物などを入れて背負う竹製の箱)を背(しょ)って遊学したが、明治35年飯田中学が第1回の卒業生を世に送る頃よりは、我が国力の目ざましき伸展と共に上京する学生の数も年々激増した。彼等青少年は出身附近町村相知のものが集まって、数人宛で住宅を借り入れ共同自炊生活を始めた。晶竜窟(しょうりゅうくつ)信竜窟(しんりゅうくつ)等の名で伝えられるのがそれであった。

タイムスリップ 《信陽舎五十年史》① ”はしがき”と大塚台寮建設まで 【前頁より続く】

共同寄宿舎募金運動の開始 そこでそれら自炊寮を併合し新たに共同寄宿舎の建設の議が自然に起り、明治35年の夏休みを皮切りに、遊学生や郡青年会の幹部や有力な先輩等が協力して一大運動を起こすことに決し、直ちに宣伝講演募金に着手した。当時は交通の便が全くないので、皆草鞋(わらじ)ばきで郡下全村を宿泊遊説する有様であった。当時飯田仙寿楼(せんじゅろう)の大広間に集合せる幾十人の有志や青年が、島地五六中学校長や先輩を中心にした意気軒昂たる記念写真が当時を偲ばせる。

然(しか)るにその後間もなく日露戦争の勃発により、止むなく一時運動を中止したが、終戦と共に再び運動を続け、一方在京有力者の熱心なる協力も得て、遂に一万数千円の資金獲得に成功した。

大塚台に建設 そこで明治39年小石川大塚町68番地に300坪あまりの敷地を隣の山川家より借り受け、木造総2階建延約120坪の寄宿舎を建設することができた。同年11月新嘗祭(にいなめさい)の佳節をト(ほく)して、盛大に落成開寮式を挙げ信陽舎の歴史の第一頁が始まったのである。当日は石沢謹吾翁を中心に大工原、樋口、今村恭、伊原先輩や学生5、60名の参列者を見、その記念写真は幸いに複写して当新寮内に掲げて保存してある。

信陽舎と命名 因(ちな)みに「信陽舎」とは、当時在京の長老石沢謹吾翁が命名したものと伝えられる。信陽とは信州と同一義であろう。

尽力されし先輩 当時この建設に尽力された人々は、遊学生、青年会幹部を一線とし、各町村長並びに有力者であり、東京に於ては石沢謹吾、柳田直平、伊藤大八、今村恭太郎、今村力三郎、大工原銀太郎、河野秀雄、樋口秀雄、高橋鍊逸、清水福市、塩沢梅之助、大倉発身、田中銀之助、森弁次郎、石沢愛三、桜井大二郎、伊原五郎兵衛氏等であつて、柳田翁を創立委員長とし、実際の建設を推進実行したのは東京帝大卒業間もなき若き伊原氏の情熱と断行力であつたと云う。之等の同郷先輩は当時国内各界に於て何れも錚々(そうそう)たる人物であつた。

タイムスリップ 《舎外生にて第一回建設功労者芳名》

『昭和34年9月調 舎友名簿 財団法人信陽舎 理事長 加納金三郎誌』より

注：記事欄の（ ）内は福與調

氏名	出身地	卒時の職業	記事
石沢 謹吾	飯田	錦鶏間伺候、大典獄	(警視庁警視、信陽舎創立時代代表)
島地 五六	飯田	飯田中学初代校長	(飯田中・高同窓会初代会長)
柳田 直平	飯田	大審院(最高裁)判事	信陽舎創立委員長 (柳田國男の養父)
伊藤 大八	伊賀良(上殿岡)	代議士	(満鉄副総裁、中央線辰野經由“大八廻り”貢献)
今村 恭太郎	山吹(高森町)	東京地方裁判所長	(日比谷焼打ち事件等の裁判長)
今村 力三郎	飯田	弁護士	(足尾鉍毒事件等弁護、専修大学総長)
大工原 銀太郎	飯田	西ヶ原農事試験場長	九大総長(大工原酸度(Daiku h ara acidity)提唱者)
河野 秀雄	豊丘村	会計検査院長	
高橋 鍊逸	飯田	三菱商事常務取締役	三代理事長として二十数年間(菱田春草と従弟)
樋口 秀雄	飯田	社会学者、代議士	二代目理事長(日夏耿之介の叔父)
清水 福市		教育家	
塩沢 理一	松尾(飯田)	実業家	
桜井 大治郎	松尾(飯田)	実業家・星名刺	
伊原 五郎兵衛	飯田	伊那電社長	(飯田線開通の功労者、伊原江太郎現副理事長の祖父)
小松 茂治	山本(飯田)	医師	
岡田 巳之吉	飯田	実業家	
金子 政輔	上片桐(松川町)	新聞記者	
城下 清一	喬木	教育家	
小林 洋吉	竜丘(飯田)	農業	

上記以外の尽力された方は、塩沢梅之助、大倉発身、田中銀之助、森弁次郎、石沢愛三など。(『信陽舎五十年史』《尽力されし先輩》より)

武蔵野雑感

創建116年 信陽舎建設に尽力された方々の人物像

(文責：福與)

石沢 謹吾 1830年(文政13年)11月14日生～1917年(大正6年)5月12日没(88歳)。飯田藩郡奉行、家老(慶応2年)、飯田藩の大参事(明治2年)、警視庁警視(明治8年)等を歴任。「信陽舎」の命名者であり、創立時の代表者であった。

島地 五六 飯田中学の初代校長、飯田中学・高校同窓会の初代会長でもあった。

柳田 直平 1849年(嘉永2年)7月13日生～1932年(昭和7年)没(83歳)。飯田藩士・安東家の二男として生まれ、柳田家の養子となる。大審院判事を務めた。民俗学者の柳田国男の養父でもあり、信陽舎建設時の創立委員長であった。

伊藤 大八 1858年(安政5年)12月19日生～1927年(昭和2年)9月10日没(69歳)。飯田・上殿岡出身、1890年帝国議会第1回選挙で当選、衆院議員を5期、政友会会長を務める。逓信省鉄道局長、満鉄副総裁などを歴任。

中央線の辰野廻りに貢献し“大八廻り”と評判になるとともに江ノ電創設にも係わった。

武蔵野雑感 創建116年 信陽舎建設に尽力された方々の人物像 【前頁より続く】

今村力三郎 1866年（慶応2年）6月14日生～1954年（昭和29年）6月12日没（88歳）。飯田の蜂谷家に生まれ、今村家の養子となる。専修法学校を首席で卒業し、弁護士、判事等を歴任。足尾鉬毒事件の弁護や田中正造、幸徳秋水などの大逆事件等の弁護をする。法職を引退後は伊豆に引き籠り隠棲していたが、1946年 80歳のとき専修大学の学生たちの強い懇請により専修大学総長を引き受け、晩年の88歳まで務めた。今村総長の葬儀は大学の体育館で盛大に執り行われた。信陽舎の馬橋寮の近く、南阿佐ヶ谷から狹窪にかけて敷地1万平米の広大な屋敷を持っていて、後に専修大学に寄附された。

「今村力三郎先生は、長野県人東京連合会に参加し、自宅のあった杉並長野県人会の会長も務めていた」（専修大学史資料室・山田兼一郎氏談）。昭和14年版『杉並区勢概要』には「財団法人信陽舎」の理事として 柳田直平とともに名が記載されている。

今村恭太郎 1869年（明治2年）5月10日生～1936年（昭和11年）12月7日没（68歳）。山吹出身、大審院判事・今村信行の長男。専修法学校卒、明治法律学校卒で東京地方裁判所長。明治38年には日比谷焼討事件等の裁判長を務める。

「大正期の学生が創設した『専修大学長野県人会』では今村力三郎先生ともども指導的立場であった」（専修大学史資料室・山田兼一郎氏談）

大工原銀太郎 1868年（慶応4年）1月27日生～1934年（昭和9年）3月9日没（66歳）。上伊那郡中川村の鈴木家に生まれ、飯田の大工原家の養子となる。帝大農科大学卒の農芸化学者。“大工原酸度 (Daikuhara acidity)”の提唱者で、土壌酸性がアルミニウムに因ることを世界で初めて発見した研究者。九州帝大第3代総長、同志社大学第9代総長などを歴任した。

河野 秀雄 1874年（明治7年）9月4日生～1938年（昭和13年）3月12日没（64歳）。下伊那郡豊丘村出身。1889年（明治21年）体育伝習所（現・筑波大学体育専門学群）卒。1896年（明治29年）東京法学院（現・中央大学）卒。1898年 司法省入省（官僚）。1900年会計検査院に移り、1933年（昭和8年）会計検査院長。

高橋 錬逸 1875年（明治8年）生。本名は小木曾三男治で、日本画家・菱田春草の従兄弟である。菱田春草の母の兄・小木曾岬治の三男として生まれる。1874年（明治7年）生まれの菱田春草とは1歳違いの年の仲良しで兄弟の様に育つ。高等商業学校（現・一橋大学）卒業後、三菱に入社し、東京の高橋家の養子となる。三菱商事常務取締役、東京海上火災（旧三菱海上）取締役等を歴任。

戦後、三菱を退社した後、日本女子大学の理事を務める。1935年の日本ダービー（第4回東京優駿大競争）で優勝した名馬・ガヴァナーの馬主としても著名。

大正13年財団法人信陽舎設立・登記と同時に初代理事長に就任。（注：加納金三郎第2代理事長による『信陽舎五十年史』編纂時の舎友名簿の「第一回建設功労者芳名」の備考記事欄では、「三代理事長として二十数年間」と記されている）

樋口 秀雄 1875年（明治8年）5月14日生～1929年（昭和4年）6月6日没（54歳）。信州飯田町（現・飯田市）の銀行家・樋口与平の長男として生まれる。東京帝大哲学科社会学専攻卒。1904年明治大学で教鞭をとる。1909年「文芸革新会」を興す。1911年に大隈重信主宰の雑誌『新日本』の編集を務める。1915年衆議院選挙で当選し代議士となる。後年、樋口龍峽を名乗る。

詩人で英文学者・日夏耿之介（本名・樋口国登）の叔父（つまり、日夏耿之介の母の弟）である。

（注：加納金三郎第2代理事長による『信陽舎五十年史』編纂時の舎友名簿の「第一回建設功労者芳名」の備考記事欄では、「第二代理事長」と記されている）

伊原五郎兵衛 1880年（明治13年）10月8日生～1952年（昭和27年）4月3日没（72歳）。飯田の漆器店近江屋の伊原五郎兵衛の三男として生まれる。幼名は恒次。1906年（明治39年）東京帝大卒。9代目伊原五郎兵衛を襲名。伊那電鉄の専務として飯田線の開通に尽くした功労者で、1928年筑摩電気鉄道（後・松本電鉄、現・アルピコ交通）の社長などを歴任。その生き方や人柄ゆえに“伊那谷の西郷隆盛”と言われた。

『信陽舎五十年史』の信陽舎創建に《尽力されし先輩》の中で加納金三郎第2代理事長は伊原五郎兵衛について次のように書いている。「実際の建設を推進実行したのは東京帝大卒業間もなき若き伊原氏の情熱と断行力であったと云う」

因みに、現在の副理事長・伊原江太郎さんは伊原五郎兵衛の孫にあたる。

【 信州の明珠財宝 ⑧ 】 国宝・仁科神明宮 （大町市社宮本）



伊勢神宮より譲り受けた三の鳥居



国宝の（左から）中門・釣屋・本殿



神門

仁科の森に鎮座する日本最古の神明造。スギ・ヒノキを中心にアカマツ・クリ・コナラ等いずれも巨木・大木が鬱蒼と茂る神聖なる境内の奥に佇む本殿・釣屋・中門は1636年（寛永13年）の造営で、神明造の建築物としては、わが国唯一の国宝である。

私のウイズコロナ生活 & 私のコロナ予防対策

『私のウイズコロナ生活』

神波 潔(舎友No. 85)

10年前、医者に「あなたの声は緩んでいる」と言われた。直すには日々のボイストレーニングしかないという。そこで日本詩吟学院・長野岳風会に入門した。以来苦節10年、段位8段、準師範の免状を戴いた。コロナ禍の二年、この詩吟がどれほど私を励ましたか計り知れない。大声で話せない中、腹の底から声を出す。もちろんマスクをした状態だが、これが精神を安定させ、八十路の関門を余裕で超えた。

『我流の新型コロナ予防対策』

池神利勝(舎友No.108)

1. 毎日一度でも良いので腹の底から笑う(泣く)こと：笑うことでNK細胞が増加(活性化)し免疫強化になる。結果「笑うことがガン予防となる」。老若男女、誰でも毎日数千個のガン細胞が出来ると言われるが、笑うことでNK細胞が増え、ガン細胞の増殖を抑える。作り笑いでも効果あり、とのこと。「免疫強化」が新型コロナ予防になるのであれば、誰でも安価で簡単にできる方法かと思えます。
2. 外出時にはガムを噛むこと：ガムを噛むことで喉が常にうるおい、外から侵入してくる細菌類を胃に流し込む(肺へは行かせない)。これは某先輩のアドバイスですが、彼は20代から今までインフルエンザはおろか風邪ひとつひいたことがないとのこと。また、水をちよびちよび飲む(アルコールではありませんよ)のも効果ありとか・・・。
3. 毎日ヤクルトを飲むこと(宣伝ではありませんが・・・?)：ヤクルトは創業者である代田稔博士(長野県竜丘村出身)が幼い頃、貧しい農山村で赤痢、疫痢、肺病等の感染症で多くの方が亡くなるのを目の当たりに見て、何とか予防できないものかとの思いで、今から90年前、京都帝国大学時代にラクトバチルス・シロタ株(ヒトの腸に宿る善玉菌)を発見、それを強化培養し、商品化したのが「ヤクルト」。
ヤクルト飲用で免疫が強化されて腸内で善玉菌を増やし、その結果病気の予防に連なるとするもの「健腸長寿」(科学的知見が多く発表されている)です。感染症(新型コロナ菌等)予防に効果ありとの研究成果を期待しつつ、私は毎日継続飲用しております。

私にとっての信陽舎 & 寮生活の思い出

『テレビと共に - 信陽舎の食堂の小さなテレビが私の原点』

神波 潔(舎友No. 85)

信陽舎の食堂にテレビがあった。いつの頃からあったかは定かではないが、私が入寮した昭和36年にはあったと思う。白黒の20インチもいかなない小さなテレビだったが、「夢で会いましょう」やそこで歌われた坂本九の「上を向いて歩こう」を覚えている。

時代は所得倍増計画を引っさげた池田勇人首相が登場し、アメリカでは43歳のケネディ大統領が就任した時だ。私はバイトから帰り、遅い夕食を摂りながらテレビに鬩り付いていた。「ベンケーシー」「コンバット」「アンタッチャブル」は欠かさずみた。そんな中で衝撃を受けたのは、日米初の衛星中継実験にケネディ大統領の暗殺映像が流れたことだ。いま同時刻にこの事実が起きていて、それを生中継で世界中の人が観ているのだ。これがテレビの力だ。私はすっかりテレビという小さな箱の魅力に取りつかれてしまった。

昭和39年10月、食堂のテレビは黒山の人だかりになっていた。東京オリンピック女子バレーボール決勝。大松博文監督が率いる東洋の魔女たちが快挙を成し遂げた。これもテレビしかできない生放送の醍醐味だ。その年、この生を活かした日本初のワイドショー番組が民間放送で始まった。当時の日本教育テレビ(NET)の「木島則夫モーニングショー」。テレビの本質を突いた画期的な番組だった。

私はこの後、縁あって地元の信越放送に就職し、制作部のディレクターとなった。その初仕事が地方局初のワイドショーの立ち上げで、まず東京のNETに見学に行った。こうして信陽舎の食堂の小さなテレビが、今も私の原点となっている。

『信陽舎での思い出三景』

原 鎌造(舎友No.144)

- ① 「筒先に宿り露も我が身なり、一滴たりとも外に漏らさじ」(詠み人知らず)。これは私が信陽舎にお世話になっていた当時(1965年～)旧館トイレの便器の前に貼ってあった狂歌です。用を足すたびにニヤッ!としながら筒先に注意しました。さて、その頃はまだ旧館のトイレから晴れた日には遠くに富士山を望むこともできました。武蔵野の風流を楽しみながら放尿の爽快感を味わうなんて古き良き時代でした。
- ② 夜中に体を持って余し、新宿駅から信陽舎まで歩いたことがあります。寮生の多くが武蔵境駅から終電に乗って新宿に行き、駅の西口で拳を挙げて、エイ、エイ、オー! 通りかかった人が怪訝そうに見ていました。青梅街道を西に向かい、高円寺で分かれて五日市街道へ。お巡りさんに呼び止められたこともあった。途中、医院の入り口に忍び寄って「本日休診」の札をこっそりいただくなどの狼藉も働き早朝に信陽舎に着きました。
- ③ 私が信陽舎にお世話になっていた頃、風呂は寮生が当番を決めて沸かしていました。この風呂当番を理由に親から金を騙し取ったワル学生がいました。小口善幸君(故人)です。彼は授業料を遊びに使ってしまったため、親にウソの手紙を書き「風呂を沸かし過ぎて釜を壊してしまいました。修理代は自分で払うことになるから〇万円送って欲しい」といって送ってもらったそうです。友達には「お前、親によくそんな事を・・・」と言われたそうです。

『私にとっての信陽舎』

杉本研一(舎友No.254)

人との縁は巡り合わせとも言われますが、不思議なものです。私は、昭和53年春に信陽舎卒業しました。そして44年間という歳月を経て、最近寮の先輩ご夫妻のされている「おもちゃの病院」というボランティア活動をさせていただく機会を得ました。その方は、入寮時に同郷のよしみで可愛がっていただいた先輩たちの中のお一人です。ずいぶんと時間が掛かりましたが、当時のご恩の一部を返せたのではないかと考えております。

(次ページは杉本研一さんにお送り頂いた関連記事です)

舎友コンビのコラボで地域に笑顔を送る！

笠原 修さん（舎友No.247）

杉本研一さん（舎友No.254）

お客さんの笑顔“報酬”

《修理ボラ「おもちゃの病院」好評》

毎月第3火曜活動 ドクターが丁寧に対応

「おもちゃの病院岡谷」のドクター・笠原 修さん（舎友No.247）と岡谷商工会議所の杉本研一さん（舎友No.254）のコラボ

壊れたおもちゃを原則、無料で修理するボランティア活動「おもちゃの病院岡谷」が好評だ。岡谷TMO（まちなか活性化推進本部、岡谷商工会議所内）の仲立ちで昨年10月、レイクウォーク岡谷（銀座1）に開設以降、毎月第3火曜の活動日には、開始時間と同時に大切な“相棒”を抱えた子どもから大人まで訪れ、無事に直ると満面の笑みとともに持ち帰る。代表の笠原修さん（天竜町）は「この笑顔が何よりの報酬」と喜びを語る。

「動くようになりましたか？」。節目の10回目の活動となった9月下旬。息子2人の母親という下諏訪町の30歳代女性は、修理を依頼していた無線操縦の車のおもちゃを受け取りに訪れ、心配そうに尋ねた。笠原さんはスイッチを入れて車の照明を点灯させつつ、操縦してみせて「大丈夫ですよ」と笑った。女性によると、この車は息子が遊んでいた時に水没し、更に8月の大雨で家に水がついた際にも巻き込まれて完全に壊れたという。「頂いたおもちゃで、その方の気持ちももっていたので直ってすごううれしい。早速子どもたちに使わせます」と声を弾ませた。

活動のスタートのきっかけは、笠原さんが全国組織の「日本おもちゃ病院協会」の研修会に参加したこと。長野市の活動に携わり、その後、昨年夏に地元の小尾口区公民館に開設して現在に至る。8月まで9回の利用実績を見ると、相談を受け付けた件数は69件。修理件数は50件、修理不可は13件、ほかは部品手配や長時間作業などの「預かり」。最も受け付けが多かったのは2回目の開設となった昨年12月の20件で、その後も5、6件平均の相談がある。修理をする人は「ドクター」と呼ばれ、更に“患者”となるおもちゃ一つ一つにきちんと「カルテ」がある。

笠原さんは「最近のおもちゃは機構が複雑で家庭で直すのはハードルが高い。このボランティア活動は、私たちにとっても最新のおもちゃの新しい機構に触れられる良い機会」と語る。開設時間は午前10時～午後2時。基本無料だが、部品代が必要な場合もある。次回は19日（火）。場所はこれまでの3階から、2階フードコート前に移転する。
（杉本研一さん提供の令和3年10月18日（月）付『岡谷市民新聞』より）

《郵便、E-メール、ライン等による便り》

上松三治彦（108）： 異常な「武漢肺炎変種」流行の中、頑張っている皆さんに頭が下がります。今年いっぱいには現在の家に居られるようですが、その後は田舎（都内）に引っ越します。寮からは少し遠くなるので宜しく！

原 錬造（144）： 信陽舎の理事長さんはじめ、役員の皆様、大変ご無沙汰しております。毎回、会報を送っていただき、楽しく読ませていただいております。今回の第9号で舎友の物故者が60名もいると知って驚いています。さらにこの中に私が知っている方が20名もおられ、一人一人の顔を思い浮かべながら、まだ若いのにと、ご冥福を祈るばかりです。私は昭和20年、終戦直後の生まれで、76歳になりました。信陽舎にお世話になってから50年以上が過ぎ、信州の田舎で気楽に過ごしています。

浅沼 弘愛（172）： お世話になります。会報一式到着しました。有難うございます。毎回絵（「信州の明珠在宝」の絵）も楽しみに拝見していましたが、今回は前山寺の塔が気になりました。こちらは上田にある前山寺の三重塔のようですが、わが田舎の近所（佐久市）にも前山というところがあり、三重塔があります。お寺は貞祥寺と言います。ご存知かも知れませんが、地名といい、三重塔といい、あまりにも類似していたのでメールした次第です。（編集部注： 貞祥寺は、野沢北高校の近くの佐久市前山にあり曹洞宗の由緒ある禅寺で境内には美しい三重塔や島崎藤村の旧宅などがある）

五島 久揮（176）： お早うございます。いつもお世話になります。昨日（9月11日）の信濃毎日新聞の記事に信陽舎の先輩に関する記事が掲載されていたのでお送りします。（記事の中の先輩）高安健之さんは舎友番号251（馬橋寮では115）になります。

私はワクチン接種を2回済ませた割には、小旅行も行けないし飲み会をできず悶々とした日々が続きそうです。兎に角、自分から行動しないと明かりが見えてこないようですので焦らず日々を過ごしていくしかないようです。伊原（理事の）さんからは時々電話が入り、結構励まされています。池野兼浩さんとは、近いうちに（飯田支部の活動について）飲まない打合せをするつもりです。



現在（2022年2月）の武蔵境駅北口

訃報

ご冥福を！

物故者 63名
（武蔵境寮以降）

- ✿ 武藤 高義さん（舎友番号 16、1956年～60年在寮） 令和3年12月27日 83歳でご逝去。数年前に体調を崩され長い間療養されておりましたが、昨年末にご逝去されました。武藤高義さんは、味の素常務やカルピス社長として活躍され、信陽舎の評議員、理事も務められて寮の運営にご尽力いただきました。
- ✿ 丸山 浩さん（舎友番号 92、1961年～65年在寮） 令和2年ご逝去。2021年10月の舎友会飯田支部会合での坂 好章さん（舎友No.99、飯田支部会長）からの情報。
- ✿ 長谷川（高田）勝弘さん（舎友番号 128、1964年～68年在寮） 令和2年7月7日ご逝去。片桐勝臣さん（舎友No.110）より、飯田高校同窓会報の訃報欄に載っていたとの情報。

転居通知

転居先住所は、個人情報保護のため表示を差し控させていただきます。連絡等でお知りになりたい方は、お手数ですが事務局までお問合せ下さい。

城倉（中尾）裕（472）： お世話になっています。舎友番号472の中尾裕です。現在、結婚により住所と氏名が変更になりましたので、お伝えさせていただきます。現在の氏名は城倉 裕で、住所は伊那市西春近です。宜しくお願い致します。

《事務局より「信陽舎で貴方と同期の田中淳一さん(470)が寮の理事としてご尽力いただいています」と返信したところ》

田中淳一君、懐かしいですね。一緒に寮でお酒を飲んだり、麻雀した記憶がよみがえりました。田中君に宜しくお伝え下さい。もし宜しければ、いつでも構いませんので私のメールアドレスもお伝えしていただきたいと思います。久しぶりに連絡を取りたいと思いました。

《城倉(中尾)裕さんのこのメールを田中淳一さんに転送してあげたところ田中さんから以下のメールあり》

田中 淳一（470）： ご連絡を有難うございます。中尾君、懐かしいです。確か寮で隣部屋だったこともあり、仲が良い寮友の一人です。勤め先と姓が変わったことは知りませんでした。さっそく、連絡してみようと思います。驚いたことに、中尾君の勤め先は、私がシステム導入を行っていた大手バルブメーカーです。こんなところでも縁があるとは、面白いですね。私は、2021年4月に滋賀県湖南市に引っ越しました。

蟹澤 大輔（552）： いつも会報をお送り頂き有難うございます。郷里の千曲市稲荷山に戻りましたので、今後お送りいただく時はそちらの住所宛にお願い致します。

佐々木優一（572）： 2015年3月まで信陽舎に大変お世話になっておりました佐々木優一と申します。この度は会報第9号をご送付賜り感謝申し上げます。会報を拝見するたびに、年々信陽舎に何かしらの形で恩返しをしたいなと痛感しております。突然ではございますが、この度、会社の辞令で転勤となり、住所が変更となりましたので確認いただけますと幸いです（新住所は、北海道旭川市）。全国転勤の仕事になりますので、転居が生じた際は速やかにご連絡させていただきます。現在は北海道におりますので、なかなか信陽舎に携わることも物理的には難しくなっており、大変申し訳ございません。日々、マスコミでも新型コロナウイルスの影響で大学に通えず、家でWEB講義を受ける大学生の様子を拝見し、心を痛めております。そんな中でもきっと信陽舎での寮生同士の関係というのは、上京した学生にとって非常に大切なのかなと想像いたします。すぐに顔を出せることは多くないかもしれませんが、何かお手伝いできることがあればお申しつけ下さい。新型コロナウイルスもまだまだ予断を許さない状況でございますが、ぜひともお身体ご自愛ください。また、長谷川寮母さんにも是非宜しくお伝えください。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

更科 剛（581）： あけましておめでとうございます お元気で過ごでしょうか？ 私は幸か不幸か元気に仕事しております。ご連絡が漏れてしまい失礼しました。転居して以下の通り住所（東京都東村山市）が変わっておりますので宜しくお願いいたします。

後田健太郎（593）： ご無沙汰しております。信陽舎OBの後田健太郎です。会報9号を懐かしく読みました。新歓（新入寮生歓迎会）での楽器演奏など楽しそうです。寮としてのコロナ対策も万全で、さすがですね。4月に千葉から岐阜（岐阜市）へ引っ越しました。今後、会報等の宛先は新しい住所にお願いします。

保坂 直人（595）： いつもお世話になっております。平成28年度まで信陽舎でお世話になりました保坂直人と申します。大変遅くなってしまい申し訳ございませんが、2020年度及び2021年度の年会費を振り込みましたので、ご確認をお願いいたします。また、下記住所（東京都立川市）に引っ越しましたので、今後の郵便物はこちらにお送りいただけますと幸いです。

大石 晃也（608）： 明けましておめでとうございます。ご無沙汰しております。実は昨年6月から東京オフィスに異動となり、都内に住んでおります。コロナ禍でしたので東京（中野区）に移ったことはお知らせしてなくて申し訳ありませんでした。

塚田 泰史（625）： ご無沙汰しています。やっと警察学校での研修が終わり、上田警察署に配属が決まり東御交番勤務となりました。そのため、住まいも東御市の警察宿舎に移転しましたので宜しくお願い致します。ご案内いただいた寮祭の当日は宿直勤務のため出席できませんが、いずれ時間に余裕ができれば寮に顔を出したいと思っていますので皆様に宜しくお伝えください。

《 2022年元旦、年賀ハガキ、オンライン賀状等より 》

長谷川廣子（M2）： 新春を寿ぎ謹んでお慶び申し上げます。昨年中はいろいろとお世話になり心よりお礼申し上げます。今年もどうぞ宜しくお願いいたします。

榊原 雅直（S3）： 謹賀新年 今年もお世話になりますが宜しくお願いいたします。

宮川 章義（14）： 新春のおよろこびを申し上げます。お元気でしょうか。往時を懐かしむ歳になりました。信陽舎をよろしく願います。寮生、並びに関係者皆様のご健勝を祈念申し上げます。

高間 成之（38）： 小・中の教科書では、話し言葉「ありがとう。」と句点を付けて表記しています。一方、小説・新聞はこの句点を付けません。82歳目の今、気になっていることです。もう歳ですから、来年から（賀状は）失礼しようかと考えております。

古島 史雄（47）： 恭賀新年 今年もよろしく願います。コロナの一日も早い終息を待ち望んで居ります。

久保田光昭（58）： 初春のお慶びを申し上げます。皆様のご健康とご多幸をお祈り致します。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

林 史典（67）： 新春を寿ぎ謹んでお慶び申し上げます。よい一年になりますように！ 15日にお会いできるのを楽しみにしております。

小池 章（76）： 謹賀新年 皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。本年もよろしくお願い申し上げます。

《 2022年元旦、年賀ハガキ、オンライン賀状等より 》

- 嶋岡 洋平（78）： 謹賀新年 本年もよろしくお祈りいたします。新型コロナの心配のいらぬ楽しい年に早くなって欲しいですね。
- 北原 靖久（81）： 謹賀新年 皆様のご健康とご多幸をお祈りいたします。 コロナが終息して穏やかな年になりますようお願いしております。
- 神波 潔（85）： 謹賀新年 昨年10月、わが家の庭にアサギマダラがやってきました。 学生寮の難しい時代、頑張ってください！
- 中田 篤（96）： 謹賀新年 すばらしい一年になりますよう心よりお祈り申し上げます。 今年もどうぞよろしくお祈りいたします。
- 坂 好章（99）： 謹賀新年 新しい年を迎え皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。 コロナ禍の早い収束が望まれます。 行動に何かと制約を受けます。
- 中田 茂（102）： 明けましておめでとうございます。 皆様のご健康とご多幸をお祈りいたします。 今年も宜しくお祈りいたします。
- 中山 卓（103）： 謹賀新年 新春を迎え皆様のご多幸をお祈り申し上げます。
- 上松三治彦（108）： 大変な事が続きますね。「西安」はコロナだけでなく別の病気もあるみたいですね。 いつも「西安」で歴史が変わるのかな？ スキーはやらないけど、スキー場に三ヶ月居たので本物の雪と「人工雪」の違いは知っています。「張家口」って「雪の名所」だったかね？ 「中国は石の山」の様にガラガラと崩れて行くんじゃないだろうね！ 「うそつきのアベちゃん」中国にみならった「統計のウソ」までやってたね！
- 片桐 勝臣（110）： 謹賀新年 新しい年が皆様にとって良い年でありますよう心よりお祈り申し上げます。 ご健勝にてご活躍くださるようお祈りいたします。
- 小平 国俊（113）： 謹賀新年 良い年をお迎えのことと存じます。 本年もどうぞよろしくお祈り申し上げます。 皆様のご多幸を心からお祈り申し上げます。
- 深澤 克巳（115）： 謹賀新年 新春を迎え皆様のご多幸をお祈り申し上げます。 今年もよろしくお祈りいたします。
- 福田 璋夫（116）： あけましておめでとうございます。 アルファ、ベータ、ガンマと、・・・そして、今度はオミクロン型。 身をかがめて通り過ぎるのを待つ日々です。 コロナ禍三年目、家飲みも身に付き、また続けている手習いにも一層のめりこみ、元気に過ごしております。 本年もよろしくお祈りいたします。
- 土屋 雅敬（129）： 謹賀新年 佳き年を迎え皆様のご健勝をお慶び申し上げます。 コロナ禍が早期に落ち着くことを祈っております。
- 深澤 勝吉（135）： 今年も宜しくお祈り申し上げます。 今年も健康で家族助け合って（^^♪ 明るく陽気に行きましょう！（^^♪ 歌に乗せて元気で過ごしたいと思っています。 毎日の晩酌を楽しみに会社の経理、家族の事、諸々大活躍。 閑白失脚の歌（さだまさし）に、俺の事だあ〜、聞いてくれ！と言っています（感謝してます！）。
- 竹村 治恭（140）： 初春のお慶びを申し上げます。 本年もよろしくお祈りいたします。
- 原 錬造（144）： 謹んで新年のお慶びを申し上げます。 今年もどうぞよろしくお祈り申し上げます。 豊丘村もリア新幹線の工事が徐々に進み変わっていきます。
- 平沢 忠明（145）： 初春 今年も幸多き年でありますよう心よりお祈り申し上げます。 ご活躍をお祈りいたします。
- 生嶋 正和（146）： 謹賀新年 新しい年を迎え皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。 本年もよろしくお祈りいたします。
- 伊原江太郎（147）： 謹賀新年 母キヨは本年数え歳103歳、愛読書は文芸春秋、日経と歴史物。 今尚、身の回りは全て自分で。 江戸末期の黒船到来時同様、我、新しき流儀に学び直しの心境で向かうも、迷路同然の心中に至る。 憂き世を脇に、ありし日々のアルバム捲りは心の宝。 新入寮生への期待は大きくなるばかりです。 良き年となりますように！
- 葛岡 龍夫（151）： あけましておめでとうございます 本年もどうぞよろしくお祈り申し上げます。 今年も名ばかりになりそうです。 ご活躍を。
- 鈴木 昭夫（154）： 謹賀新年 皆様の幸多き年でありますよう心からお祈り申し上げます。 今年もよろしくお祈りいたします。
- 仲田 哲夫（155）： 謹賀新年 本年もよろしくお祈りいたします。
- 牧野 憲治（157）： 謹賀新年 皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。 本年もどうぞ宜しくお祈りいたします。 毎回の「業務報告」ご苦労様です。 ご健康に留意され、益々のご活躍を祈念しております。
- 金田 憲治（164）： 新年あけましておめでとうございます 旧年中は大変お世話になり心から御礼申し上げます。 今年も宜しくお祈り申し上げます。 昨年、来飯していただき大変楽しいひと時を過ごせました。 フェイス&フェイスの重要性を改めて認識しました。
- 浅沼 弘愛（172）： HAPPY NEW YEAR 2022 May this year be happy and fruitful！ 今年も「明るく元気に」をモットーで！ 本年も宜しくお祈りいたします。
- 五島 久揮（176）： 謹賀新年 幸多き一年になりますよう心よりお祈り申し上げます。 コロナ禍が早く明ける日を願っております。
- 深津 徹（184）： 謹賀新年 今年も素晴らしい一年でありますよう心からお祈り申し上げます。 本年も宜しくお祈り申し上げます。
- 中村 克己（190）： 謹んで新年のお慶びを申し上げます。 小生も体力維持を目的に早朝ウォーキングを続けてきました。 又、規制緩和で使える施設にてテニス、バドミントン、そして、新しくピクセルボールを加えて楽しんでいます。 今年にはコロナが収まり、皆さんが自由に集まれる事を祈願いたします。 本年も宜しくお祈り致します。（Line賀状）
- 中村與志人（191）： 寿 我が干支の五黄の寅や破魔矢うく 百仙
- 水上 吉雄（194）： 迎春 今年もよろしくお祈りいたします。 本年も宜しくご指導の程お祈りいたします。
- 寺島裕一郎（217）： 賀正 今年こそコロナが落ち着いて欲しいと願っております。
- 原 誠（220）： 初春のお慶びを申し上げます 壬寅（みずのえとら）は厳しい冬を耐え抜いたあとの芽生えの春を意味するそうです。 コロナ禍の終息とみなさまの春到来を心よりお祈り申し上げます。 本年もよろしくお祈りいたします。
- 山口 章裕（222）： あけましておめでとうございます 皆様のご健康とご多幸をお祈りいたします 今年もよろしくお祈りいたします。

《 2022年元旦、年賀ハガキ、オンライン賀状等より 》

- 田中 誠一 (262) : あけましておめでとうございます 皆様のご多幸をお祈りいたしております。毎年、会報を楽しみに拝読しています。そろそろ現役引退で家の中の片付けでもしようかと考えております。
- 福澤 秀志 (266) : 謹んで新年のお慶びを申し上げます 素晴らしい一年になりますように。今年もよろしく願っています。
- 青柳 淳英 (280) : 謹賀新年 大変ご無沙汰しております。お元気で過ごしのこととお慶び申し上げます。旧年中は仕事もコロナ禍の影響を受けましたが何とか乗り越えることができました。本年は早くコロナ禍前に戻るべく巻き返しを図って行きたいと存じます。皆様のご多幸を心よりお祈り申し上げます。
- 岩原 伸 (290) : 新年のお慶びを申し上げます 振り返ると様々なことがありましたが、無事還暦を迎えることができました。これも皆様方のおかげです。心より感謝申し上げます。週に一度はスカイパークでウォーキング。健康に気を遣うようになりました。なによりも元気にいたいと思います。親子ともども大変お世話になります。
- 池野 兼浩 (298) : 謹賀新年 令和初の寅年のごあいさつ 新しい年を迎え皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。宮仕えもうストラです。
- 高野 雅彦 (302) : あけましておめでとうございます 皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。なお本年も何卒よろしく願い申し上げます。
- 仁科 圭右 (306) : 謹賀新年2022 旧年中はお世話になりました。本年も宜しく願います。クッキー(愛犬)が3匹の子犬達出産!
- 吉村 信二 (309) : 慶祝新春 皆様のご多幸をお祈り申し上げます。楽しみがなく労働に励めません。酒 x 旅行 x カラオケ x ゴルフ x 早くコロナが収束してほしいです。
- 小林 隆 (354) : Happy New Year 2022 旧年中は大変お世話になり心より御礼申し上げます。本年も変わらぬご厚情のほどお願い申し上げます。
- 瀧澤 如 (390) : HAPPY NEW YEAR 2022 信陽舎が116年間も続いて、とてもすごいことだと思います。寒い日が続きますので、お身体に気をつけてお過ごしください。
- 坪木 崇 (408) : あけましておめでとうございます 本年もよろしく願い申し上げます。寮運営いつもありがとうございます。コロナが落ち着いて、少しでも信陽舎に顔を出したいです。
- 下岡 祥平 (524) : 謹賀新年 旧年中は格別のご厚情を賜り心よりお礼申し上げます。本年もご指導のほどよろしく願っています。
- 両角 旺大 (610) : 謹賀新年 新しい年を迎え皆様のご健康とご多幸をお祈りいたしますと共に本年も宜しく願い申し上げます。コロナ禍でなかなかお会いできず残念ですが、状況が落ち着き、お会いできる日を楽しみにしています。
- 宮崎 健太 (615) : 迎春 今年もよろしく願っています。ご無沙汰しております。年始のご挨拶をいただきまして誠にありがとうございます。お陰様で、大学院の方は無事に修了できそうです。修了後は都内の市場調査会社に勤務する予定です。信陽舎での学びを社会において活かしていけたらと思っています。また、いずれ対面でご挨拶させていただければ嬉しいです。福與さんもお身体に気を付けて本年もご活躍なさってください。
- 宮田 友和 (617) : 新春のおよこびを申し上げます 皆様のご健康とご多幸を心からお祈り申し上げます。
- 竹内 亮人 (623) : 寒中お見舞い申し上げます。ご丁寧な賀状をいただきありがとうございます。お陰様でこちらは元気に過ごしております。信陽舎の皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げますとともに本年もどうぞよろしく願っています。
- 塚田 泰史 (625) : HAPPY NEW YEAR 新しい年が素晴らしい一年でありますようお祈りいたします。本年もよろしく願っています。おかげ様で元気に勤務しております。1月4日~3月初旬まで、また学校(警察)に行きます。
- 権田敬太郎 (627) : 恭賀新年 本年が皆様にとって良い年となりますよう心よりお祈り申し上げます。大変ご無沙汰しております。昨年まで大変お世話になり有難うございました。今は、忙しいながらもなんとか元気に過ごしております!

《 2021年末の喪中ハガキ便り 》

- 浜 国昭 (65) : 喪中につき年末年始のご挨拶をご遠慮申し上げます 本年3月4日 妻 正恵 が73歳にて永眠致しました。ここに生前のご厚情を深謝いたしますとともに明年も変わらぬご厚誼を賜りますようお願い申し上げます。
- 牧内 良平 (91) : 喪中につき年頭のご挨拶は謹んでご遠慮申し上げます 美栄(妻)の母・金井ハマが8月24日、108歳の天寿を全うしました。人形浄瑠璃の太夫として百歳まで現役で活動。地域文化振興に貢献したとして、文部科学大臣賞等多くの表彰に与かりました。何事にも情熱を注ぐ精神力が長寿の秘訣だったと思います。皆様にとって新年が良い年となりますよう心から祈念いたします。
- 池神 利勝 (109) : 寒中お見舞い申し上げます。昨年12月に兄(百歳)が永眠いたしましたため、新年のご挨拶を申し上げるべきところ喪中につきご挨拶を遠慮させていただきました。今後共変わらぬご厚誼の程宜しく願い申し上げます。
- 五嶋 昭 (112) : 喪中につき年末年始のご挨拶をご遠慮申し上げます 義母 羽生信子が10月9日に96歳で永眠いたしました。本年中に賜りましたご厚情を深謝いたします。みなさまにはどうぞよいお年をお迎えください。
- 松山 順治 (158) : 喪中につき年末年始のご挨拶をご遠慮申し上げます 義母 河野ワカが1月13日に95歳で、姉 池田安子が6月1日に89歳で永眠いたしました。生前に賜りましたご厚情を深く感謝いたしますと共に、皆様には佳き年をお迎えくださいますよう心よりお祈り申し上げます。
- 櫻井 康夫 (166) : 喪中につき年末年始のご挨拶を失礼させていただきます 母 佐藤正子が4月20日に91歳にて永眠いたしました。みなさまにはどうぞ良いお年をお迎えください。明年も変わらぬご厚誼のほどお願い申し上げます。

《 2021年末の喪中ハガキ便り 》

- 田尻 実 (207) : 喪中につき年末年始のご挨拶をご遠慮申し上げます 母 澄子が12月13日に 97歳で永眠いたしました。ここに本年中のご芳情を厚くお礼申し上げますとともに、みなさまには良い年が訪れますようお願いいたします。
- 田村 裕昭 (264) : 喪中につき年末年始のご挨拶をご遠慮申し上げます 母 田村とよ子が8月29日に94歳で永眠いたしました。平素のご芳情を厚くお礼申し上げますとともに、みなさまに良い年が訪れますようお願いいたします。
- 田中 淳一 (470) : 喪中につき年頭のご挨拶は失礼させていただきます 父 田中洋佐が1月に享年74歳で、祖父 菊地幸彦が7月に享年94歳で永眠いたしました。本年中に賜りましたご厚情に深謝いたしますとともに皆様によいお年が訪れますようお願い申し上げます。

《 2022年保護者からの年賀ハガキ便り 》

- 牛山 義章・千恵子 (牛山天陽 (621)、牛山功麻 (643) 兄弟の父母) : 明けましておめでとうございます 旧年中は大変お世話になりました。本年も宜しく願い申し上げます。いろいろお気遣いいただきまして本当に有難うございました。アイスクリーム、とても美味しくいただきました (長谷川寮母さんへ)。
- 市澤 圭治・富美 (市澤文太 (646) の父母) : 初春のお慶びを申し上げます 皆様のご健康とご多幸を心よりお祈りいたします。本年も何卒よろしく願い申し上げます。文太がお世話になっております。昨年はようやく本人に会うことができました。一年以上経っていましたが、元気で楽しく学生生活が送れている様子がうれしいです。今後ともよろしく願います。
- 櫻井 祐二 (櫻井陽向 (652) の父親) : 新春のお慶びを申し上げます 旧年中は大変お世話になりありがとうございました。本年もどうぞよろしく願い申し上げます。陽向が学生寮で大変お世話になっております。東京で同郷のよい仲間ができたようです。有難うございます。

*** 寮生活 ***

久し振りのエネルギー発散！

《 ボウリング大会で溜まったストレスも解消 》

コロナ禍の自粛生活で溜まった若いエネルギーを発散したい一心の寮生たちは、コロナ収束を祈るような気持ちで待っていたところ、緊急事態宣言が解除されたので、秋のスポーツ大会としてボウリングを行うことに決定した。10月17日(日)午後3時、参加者11名が食堂に集合し、まずコンビニで飲物を調達し徒歩で武蔵境駅へ、JRに乗りし武蔵小金井駅で下車し会場の大栄ポウル(東急スポーツラザビル内)に到着。早速、4レーンを使用(3レーンに3名、1レーンに2名)してゲーム開始。最初のうちはみんな力が入り過ぎなのかガター続出も、次第にスペアやストライクも出るようになり、スペアやストライクが出るたびに全員が大喝采、投げ方などにも個性が出て、珍プレーには大笑いするなど、普段は見られない無邪気な笑顔でお互いの親近感をより深めたようだ。

3ゲーム目に入ると若い寮生たちも疲れが出てきたのか、ボールが思いどおりにならず再びガターやよれよれの投球が増えるなど笑いの絶えないなんと愉快なゲームとなった。

全員が3ゲームを終了したところでゲームアップ。参加者全員で記念写真を撮ってから会場を後にして、再び電車で武蔵境駅に戻った。

因みに、ゲームの成績は、3ゲームの内最も良かった得点が採用され、優勝が大久保龍太君、2位が中村翼君、3位が市澤文太君と、前寮長、副寮長、現寮長の三役による独占となった。

打上げ食事は駅前のサイゼリアで予約しようとしたが、コロナ禍のため5名以上の予約はできないということで、テイクアウト用の料理を注文し寮に戻って食堂で行うことになった。サイゼリアの料理を運ぶ上級生3名の班と飲物や箸、紙コップなどをスーパーで買い物していく班に別れて寮に戻った。買い物班は、今後寮祭などで買い物する場合にスーパーの売り場を覚えてもらう必要があるということで、1年生を主体に上級生が1名入ることにした。下級生に仕事を覚えてもらうためには、上級生だけで行わず必ず1年生を入れるようにとの長谷川寮母さんの普段からの指導が行き届いていることが確認でき嬉しく思った。

寮に戻ってからの慰労食事会では、出掛けて留守になる寮母さんが事前に作り置いてくれた温かいみそ汁もご馳走に加え楽しくも和気藹々の会となった。

市澤文太君と中村翼君を中心とした上級生と下級生の仲もとても良く、非常に家族的で打ち解けた素晴らしい仲間たちと頼もしく思った次第。

宴の途中で、突然サプライズがありますと言われ、私の前にショートケーキを置き、喜寿のお祝いと称して“ハッピーバースデー”を全員で歌ってくれたのには感激でした。

今回は、ボウリング場への行き帰りの武蔵境駅と寮の往復では寮生たちと一緒に歩いたが、その道すがら寮生たちがらの質問に答える形で私の寮生時代から社会人生活についての話してきたこと、慰労会でも私の経験談を交えながら、これからの社会や地球の将来など様々な話してきたこと、そしてみんな興味深く真剣に聞いてくれ、寮生一人一人とより親密になれたことがとても嬉しかった。午後8時30分に寮を後にするときには、10名全員が1階玄関まで見送りに出てきてくれたのには再度感激！ 嬉しさと感激で胸一杯にして帰宅した。(福與記)



参加者で記念撮影



慰労会での素晴らしい仲間たち

2021年11月27日(土) 令和3年度寮祭 《2年振りに理事・先輩を交えて楽しかった!》

参加者は総勢 21名、寮生13名(大久保龍太、小林尚登、坂口大成、風間大輝、土本涼也、市澤文太、中村翼、櫻井陽向、藤原改、太田悠、北沢陽紀、五味零弥、樋口達也)、理事6名(池神常務理事、深澤常務理事、福與理事長、伊原副理事長、池野理事、岩原理事)、先輩舎友1名(山本裕斗)と長谷川寮母さん。

朝から会場である食堂のテーブルセットや食材、飲物などの買い出し、五平餅の下ごしらえ等の準備を手分けして進めてきた寮生たちは、午後3時に2階テラスにて五平餅を焼くための炭熾しをスタート、また伊原理事の指導のもとで“くるみ・山椒・ゆず”味の味噌づくりを始め、午後4時頃からテラスでは五平餅を焼き始め、食堂では料理の配膳を始めるなど五平餅の匂いが食欲をそそるなか着々と楽しい寮祭の雰囲気盛り上がっていった。



伊原理事の指導で
クルミ山椒味噌作り
をする寮生たち



2階テラスで五平餅を焼く

料理の盛り付けや配膳の準備に精を出す
寮生たち



定刻の午後6時30分、出席者全員が着席し令和3年度の寮祭がスタートした。まず、樋口副寮長の司会進行の下、藤原改副寮長による開会宣言があり、続く市澤文太寮長の開会挨拶では、概ね以下の挨拶があった。

今年はコロナ感染も落ち着いてきたので、まだ人数は限定だが理事の方々をお招きして開催することができた。開催に当たっては理事の皆様、ケアハウス様、神田聖史様などから飲み物やお祝をいただいた。また沢山の美味しい料理は長谷川寮母さんが調理・準備してくれました。今年の五平餅は伊原理事のご指導でクルミ・山椒・ゆず・黒味噌味で作ってみましたので味わってください。昨年はコロナ禍でご招待できなかったため理事の皆様とは初対面の入寮1年目、2年目の寮生8名をご紹介します。最後にコロナ感染が下火になったとはいえ、感染予防のため、会話するときはマスク着用と隣の人との会話は控えめにお願いします。それでは十分に楽しんでください。

理事長挨拶では、寮生との対面が2年振りの理事が多いので、出席した理事6名を紹介した。池神常務理事の音頭により全員で乾杯!を行い、久しぶりに賑やかな楽しい寮祭の宴が始まった。寮母さんが心を込めて調理してくれた数々の料理が次から次へと出て来たが、どれもとても美味しく、また寮生たちが苦心して焼き上げた五平餅も格別に美味しくできていた。【11頁に続く】



〈理事・先輩と親しく懇談交流する寮生たち〉



〈プロ並みのピアノと歌で魅せた藤原改副寮長〉

〈自慢ののどを披露する山本裕斗先輩〉

*** 寮生活 ***

2021年11月27日(土) 令和3年度寮祭 《2年振りに理事・先輩を交えて楽しかった!》

宴たけなわの中、待ちかねた音楽の先生を目指す学芸大声楽科2年藤原改君のピアノと歌が始まった。まずは得意の「津軽海峡冬景色」、そしてさだまさしの「案山子」などを披露、その素晴らしいピアノ演奏と歌声に全員が聞きほれた。また今年4月卒寮の山本裕斗君のリクエスト曲を伴奏し、久しぶりに山本君の美声も聞くことができた。その後、1年生でヒップホップダンスが得意の五味零弥君が自ら創作したオリジナルダンスを披露。ロボットがパントマイムを演じているようなモダンダンスで、そのユニークな動きの見事さと可笑しみに魅せられて、みんな笑顔で見入っていた。三つのテーブルに分かれた各席では、寮生たちが理事や先輩と和やかに交流する姿が、コロナ渦でしばらく見られなかったためか、とても新鮮に映った。

午後8時、腰を痛めたため飯田から車で参加された池野理事はこれから飯田に帰るということで早めに辞去され、また自宅まで2時間半かかるということで深澤常務理事も午後8時過ぎに辞去された。午後8時30分、藤原君のピアノ伴奏で「信濃の国」と「寮歌」を斉唱して閉宴となった。

今回、限定された人数とはいえ2年振りに理事や先輩を交えて行った楽しい宴で強く感じたことは、コロナ禍による長い自粛生活が人間に与えるストレスの大きさと、多様な人々との交流の場としてのコミュニティーの大切さということであった。人間にとって他人と接することが如何に喜びであり大切であるかという当たり前のことを再認識させられた。これもコロナのお陰かも知れないが、寮生たちが人と接する機会をより多く得られるようコロナの収束を祈るばかりです。



〈ユーモアあふれるモダンダンスを披露する五味零弥君〉



〈少々アルコールも入り盛り上がってますね!〉



〈早退された深澤理事、池野理事と撮影者の福與以外は全員集合〉

令和4年(2022年)2月26日(土) 卒寮生送別会 《祝 前途! 4年間お世話になりました》

依然としてコロナ感染が収束しないため、今年の卒寮生送別会も最少人数で行うことになり、参加者は2月に入寮したばかりの伊藤拓実君を加えた寮生14名に長谷川寮母さんと理事3名(伊原理事、福與、出張で上京中の池野理事)の計18名で行われた。

開始時刻を例年より30分早め、午後6時、出席者全員で卒寮生3名の入場を拍手で迎えた。まず、樋口副寮長の司会進行により、藤原副寮長の開会宣言のあと市澤寮長が「大変お世話になった卒寮の先輩方には感謝とお礼の気持ちを込めて楽しくお送りしたいと思います」と開会の挨拶を延べた。

理事長挨拶では「卒寮と大学卒業おめでとう! 社会に出てからいろいろと失敗をするだろうが、「失敗は成功のもと」とも言われるので、失敗を恐れずいろいろとチャレンジしてほしい。皆さんの活躍と成功を心から祈っています」と述べ、お祝いとして、寮会で話してきた講話を纏めた「寮会講話集全7巻」を記念に贈呈した。次に、卒寮生からお礼の挨拶として、坂口大成君、大久保龍太君、小林尚登君の順に寮生活を振り返り、楽しかったこと、有難かったこと、寮母さんに叱られて成長できたことなど感謝を込めてしみじみと語った。そして、在寮生からお祝いの記念品とケアハウスからのお祝いの色紙が三役から卒寮生3名に贈呈された。卒寮生を代表して坂口君が「私たちからも寮生の皆さんに記念の贈り物があります」と発言、大久保君と小林君が用意してあった記念品(足ふきタオル2枚と風呂場掃除用タワシ2本)を三役に手渡して、坂口君曰く「風呂掃除のときに、このタワシやタオルを使うたびに私たちが思い出してくれたら嬉しいです」このユーモアたっぷりの贈り物と発言には全員が笑顔で拍手喝采となった。次に指名された池野理事の音頭で、卒寮生の前途と参加者の皆さんの健勝を祝して乾杯を行ない楽しい別れの宴が始まった。



3名の卒寮生



卒寮生の小林尚登君、大久保龍太君、坂口大成君

【12頁に続く】

令和4年(2022年)2月26日(土) 卒寮生送別会 《祝 前途! 4年間お世話になりました》

長谷川寮母さん手作りの美味しい料理と伊原理事が差し入れてくれた五平餅に寮生たちは大満足! 後輩寮生たちは卒寮する先輩の席にかわがる訪れては語り合い別れを惜んでいた。

宴の半ばに藤原改君によるピアノの演奏が始まった。まずは、卒寮生の門出を祝ってドビュッシー作曲の“喜びの島”という曲を熱演、感情のこもった見事な演奏に一同声もなく聞きほれていた。次に、長洲剛の“乾杯”を歌い上げ卒寮生の門出を祝った。続いて恒例となった五味零弥君のヒップホップダンスが披露されたが、なんとユーモラスで複雑怪奇な動きにただ見とれるばかり、時代遅れの年寄には“どじょうすくい”か“阿波踊り”の進化版と映ったのかもしれない、自然と笑いがこぼれてしまった。最後に藤原君のピアノ伴奏で信陽舎寮歌を合唱、記念写真を撮って定刻通りの午後8時に閉宴となった。坂口君と小林君は民間企業に就職、大久保君は小学校の教師へと、それぞれの道に足を踏み出すことになるが、寮生活で学んだ人間関係の在り方を存分に発揮してそれぞれの職場でなくてはならない人材となることを願ってやまない。



在寮生からお祝い品贈呈



卒寮生からお礼の記念品贈呈



☎ 法人からのお知らせ ☎

法人役員募集!

青春の思い出を育ててくれた信陽舎に恩返しをしませんか!
寮運営のお手伝いをしていただけの方は下記事務局までご連絡ください。

《 事務局からのお知らせ 》

☎ お便り大歓迎! ☎

舎友の皆さんの近況報告や寮生活の思い出、あるいは親しい舎友の情報など気軽にお寄せください。
また、寮の運営に関するアドバイスや信陽舎の知名度を上げるためのアイデア、会報の編集内容に関する助言なども大歓迎ですので、下記事務局宛に郵送・メール・ライン等でどしどしお寄せ下さい。

☎ 舎友名簿に関するお願い ☎

舎友会では、個人情報保護の観点から「舎友名簿」の発行は行っておりません。同期会又は各地区舎友会等を企画される折に、舎友の連絡先を必要とされる場合は、下記の事務局までお問合せ下さい。
また、住所移転などにより所在不明となっている舎友が多数おられますが、お知り合いの舎友で会報等が届いていない方がいた場合は、お手数ですが下記事務局までご一報いただければ幸いです。

《 会報「武蔵野」編集委員 》

福田 璋夫(116)	福與 卓臣(117)
深澤 勝吉(135)	五島 久揮(176)
原 誠(220)	仁科 圭右(306)
田中 淳一(470)	岩原 優(580)

文中挿入の挿絵等の作画は福與卓臣

発行人 : 林 史典 (舎友会 会長)
事務局 : 福與卓臣 (事務局 局長)
〒225-0026 横浜市青葉区もみの木台 34-8
☎ (045) 902-2575 携帯☎ 090-9841-6
E-mail : tof2943@citrus.ocn.ne.jp

会報「武蔵野」第10号 令和4年4月1日発行